



環境保全活動にともない必要となる環境保全コスト、環境保全対策にともなう経済効果、環境保全効果の状況は次の通りです。環境保全コスト総額は従来と同規模であり、効率的な運用が今後の課題です。投資については省エネルギー・CO₂排出削減をはかるための設備改善が約半分を占め、温暖化対策に依然として投資が必要であることをあらわしています。

対象期間: 2005年4月～2006年3月

集計範囲: 日立電線およびグループ会社
(日立ケーブルプレジジョン本社工場を除く国内グループ会社)

環境保全コスト (百万円)

分類		主な活動の内容	投資額	費用額
事業所エリア内コスト		公害防止、省エネルギー、省資源、廃棄物処理 環境施設の監視・測定	485	3,562
内訳	公害防止コスト	大気汚染物質除去および排水処理のための設備投資・維持	100	1,087
	地球環境保全コスト	省エネルギーのための設備投資・維持	271	366
	資源循環コスト	廃棄物処理業務	114	2,109
上・下流コスト		廃棄物のリサイクル、廃棄物削減のための設備投資・維持 ドラム・ボビン・リール・パレット・容器類の回収再利用	0	572
管理活動コスト		環境マネジメントシステムの運用・維持 従業員への環境教育費・環境管理組織人件費	0	654
研究開発コスト		環境配慮型製品の研究開発	18	856
社会活動コスト		緑化・美化・景観等の環境改善	0	4
環境損傷対応コスト		環境関連の拠出金・課徴金	0	4
合計			503	5,652

項目	金額
当該期間の投資額総額	19,700
当該期間の研究開発費総額	10,800

環境保全対策に伴う経済効果

効果の内容	金額
廃棄物のリサイクルにより得られた有価物売却額	583
省エネルギーによるエネルギー費節減	218
ドラム・ボビン・パレットなど再利用による費用節減	1,028

環境保全効果

効果の内容	削減量
電気エネルギー使用量削減	7,744Mwh
燃料使用量削減(原油換算)	565KL

環境保全コスト・投資額推移

